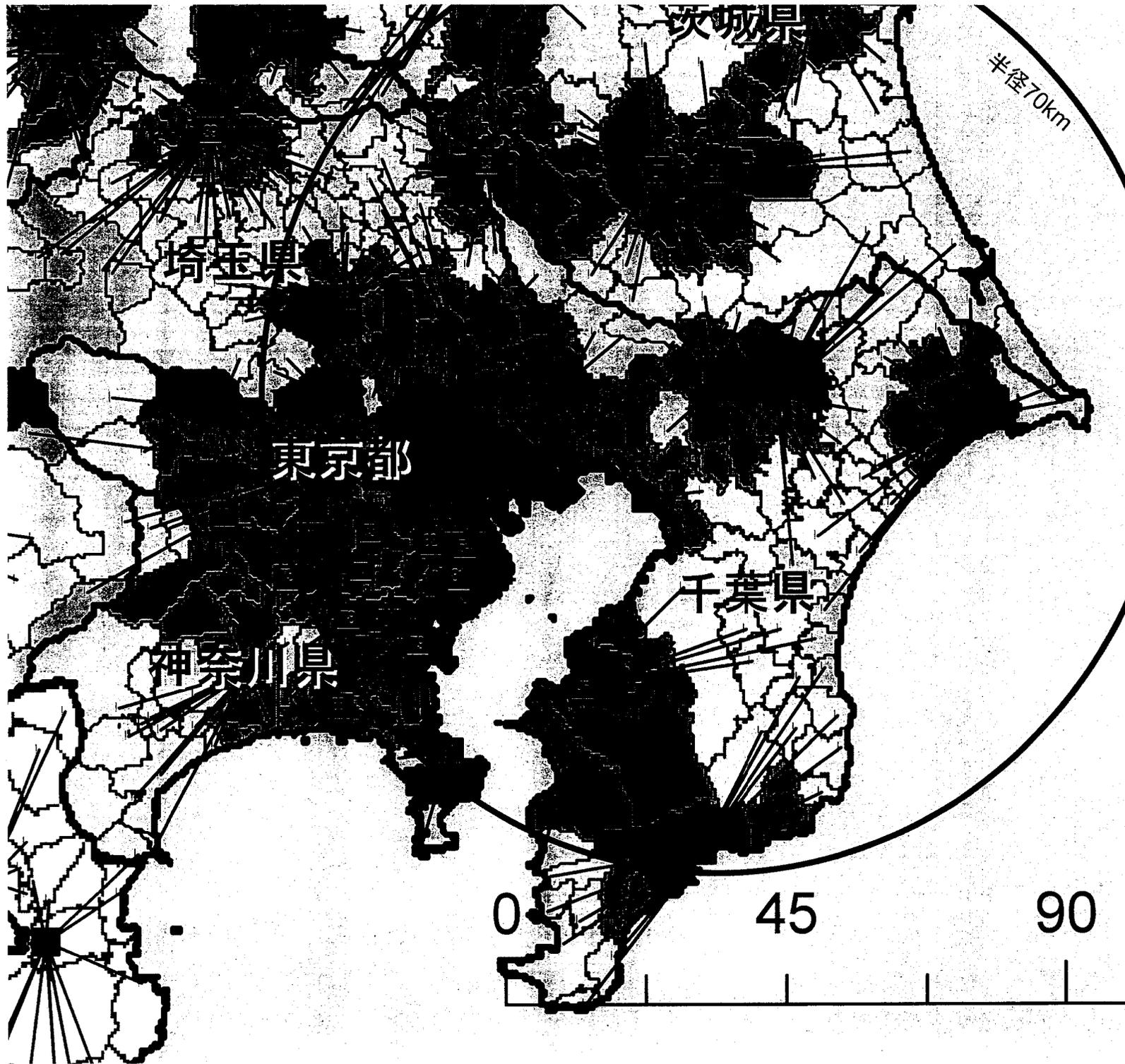


これまでのドクターヘリの配備状況

年度	13	14	15	16	17	18	19
北海道					手稲溪仁会病院		
青森							
岩手							
宮城							
秋田							
山形							
福島				(H16. 7. 1～千葉県と連携)			福島県立医大
茨城							
栃木							
群馬							
埼玉							埼玉医大
千葉	日本医大千葉北総病院						
東京							
神奈川		東海大					
新潟							
富山							
石川							
福井							
山梨			(H15. 4. 1～神奈川県と連携)				
長野					佐久総合病院		
岐阜							
静岡	聖隷三方原病院					(県単独事業)	
愛知	愛知医大						
三重		(H15. 1. 1～和歌山県と連携)					
滋賀							
京都							大阪大学
大阪							
兵庫							
奈良		(H15. 1. 1～和歌山県と連携)					
和歌山		和歌山県立医大					
鳥取							
島根							
岡山	川崎医大						
広島							
山口							
徳島							
香川							
愛媛							
高知							
福岡	久留米大						
佐賀			(H15. 9. 30～福岡県と連携)				
長崎						長崎医療センター	
熊本							(H18. 4. 25～福岡県と連携)
大分							
宮崎							
鹿児島							
沖縄							
箇所数累計	5	7	8	8	10	11	14



■ 日本医科大学千葉北総病院

凡例	
■ 救命救急センター	アクセス時間 時間(分)
— 役場から最寄のセンターまで	■ 0 - 15
— 都道府県界	■ 16 - 30
	□ 31 - 60
	□ 61 - 90
	■ 91 - 120
	■ 121 -

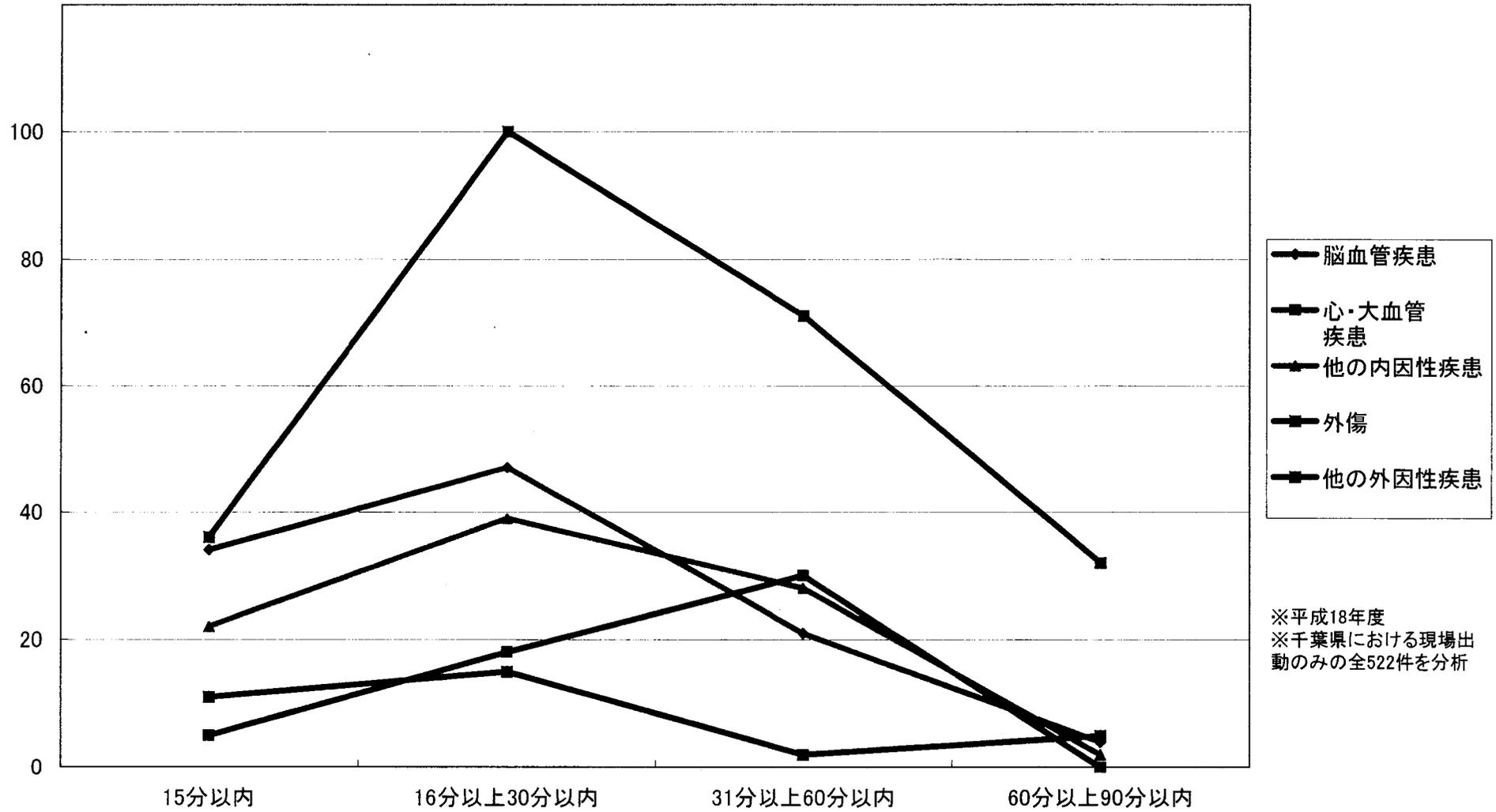
千葉県ドクターヘリ搬送実績(疾患分類による救命救急センターへのアクセス時間別分布)

	合計	救命救急センターへのアクセス時間別分布			
		-15分	16-30	31-60	61-90分
脳血管疾患	106	34	47	21	4
心・大血管疾患	53	5	18	30	0
他の内因性疾患	91	22	39	28	2
外傷	239	36	100	71	32
他の外因性疾患	33	11	15	2	5
合計	522	108	219	152	43

(注)千葉県における平成18年度搬送実績(全604件)のうち、千葉県内の現場出動を行ったもの522件を対象に分析。

千葉県ドクターヘリ搬送実績(救命救急センターへのアクセス度別疾患分類)

(件)



※平成18年度
※千葉県における現場出動のみの全522件を分析

ドクターヘリ搬送実績（疾患分類による救命救急センターへのアクセス時間別分布）

	合計	救命救急センターへのアクセス時間別分布					
		-15分		16-30		31分-	
脳血管疾患	106	34	32.1%	47	44.3%	25	27.4%
心・大血管疾患	53	5	9.4%	18	34.0%	30	56.6%
他の内因性疾患	91	22	24.2%	39	42.9%	30	35.2%
外傷	239	36	15.1%	100	41.8%	103	56.5%
他の外因性疾患	33	11	33.3%	15	45.5%	7	36.4%
合計	522	108		219		195	

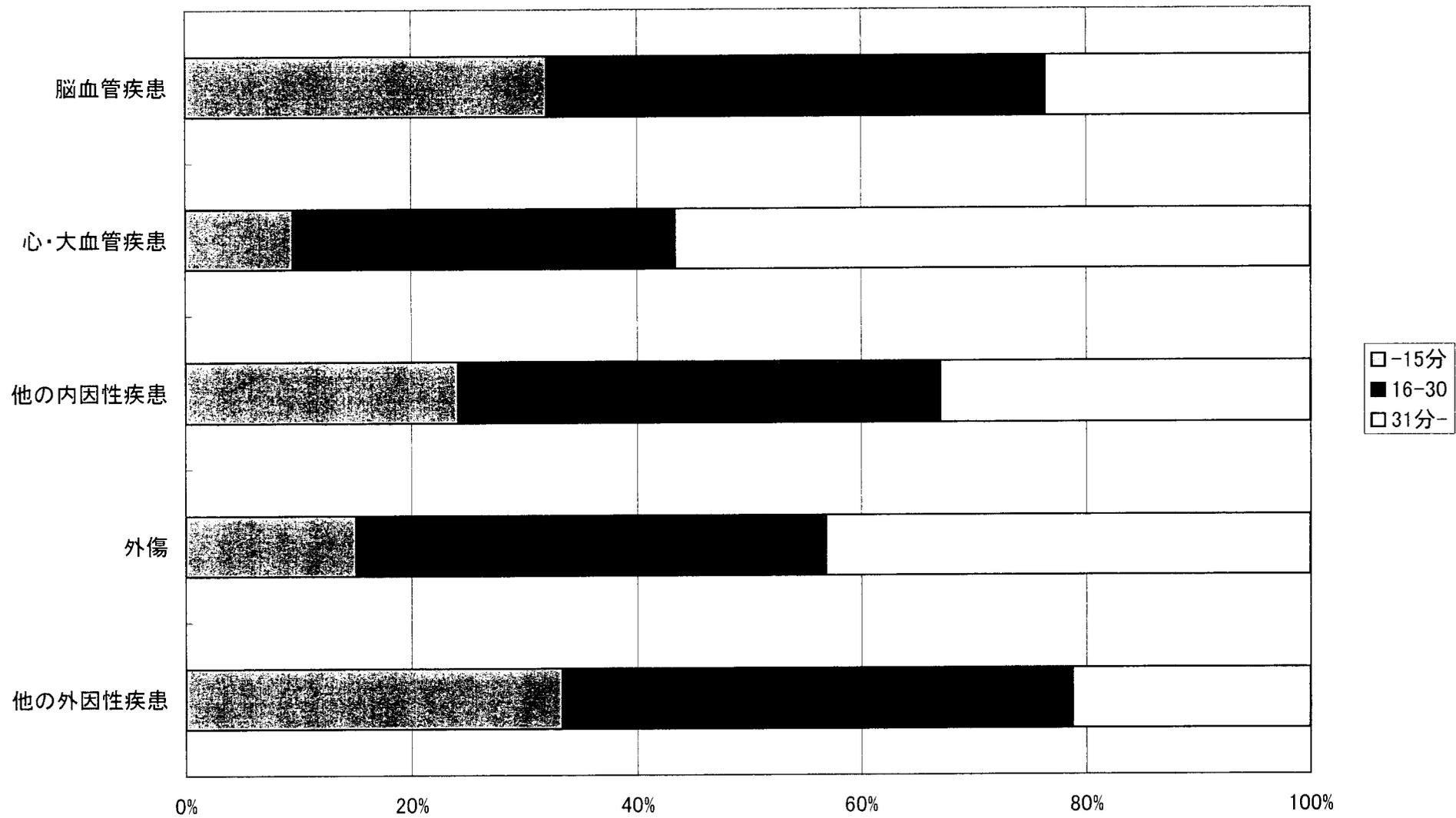
（注）千葉県における平成18年度搬送実績（全604件）のうち、千葉県内の現場出動を行ったもの522件を対象に分析。

救命救急センターへのアクセス時間による人口カバー率・面積カバー率(%)

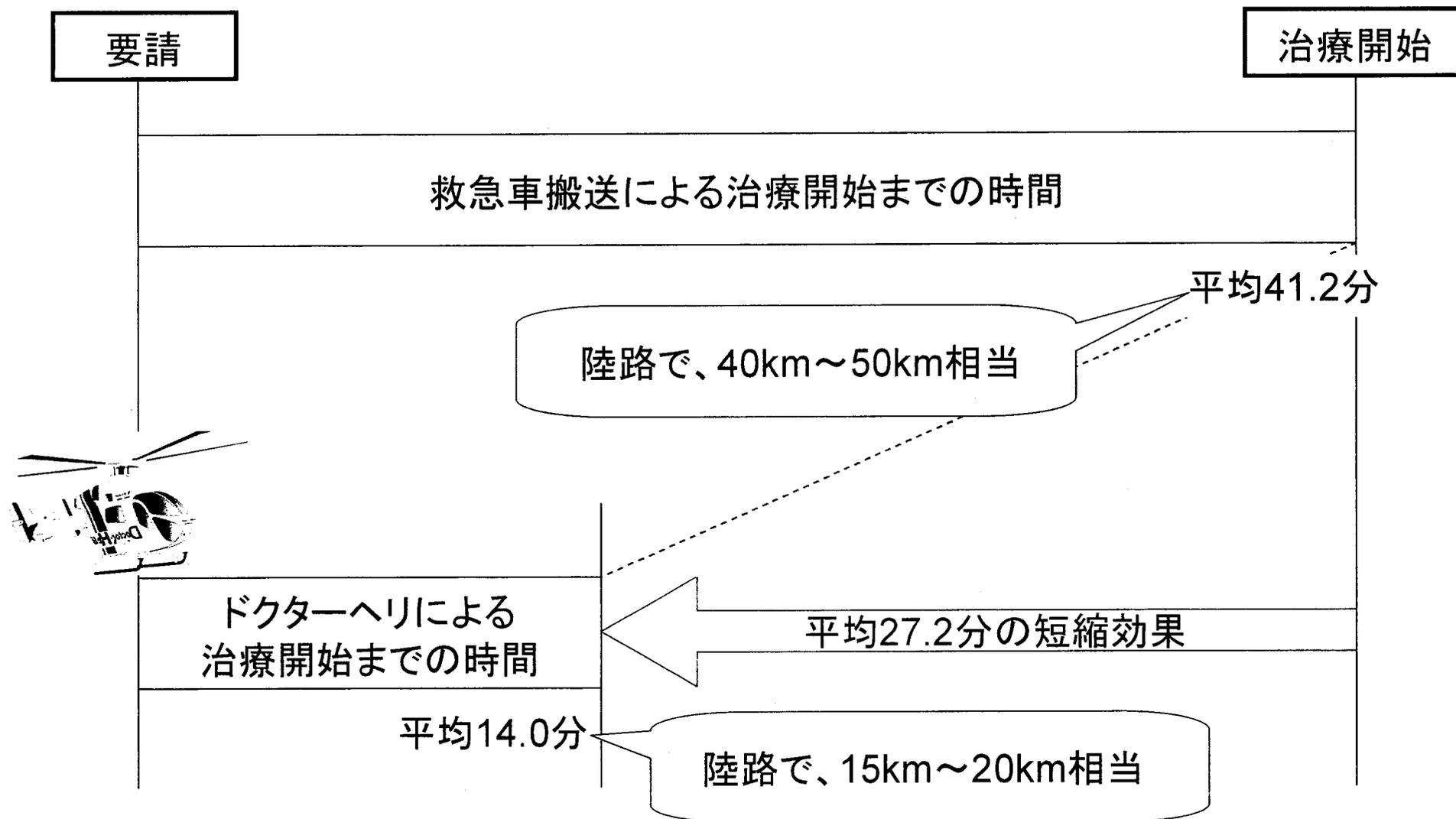
	アクセス時間	-15分	-30分	-60分	-90分
千葉県	人口	13.0	55.1	94.8	99.4
	面積	5.3	33.1	89.4	96.9
全国	人口	22.9	61.2	88.8	95.4
	面積	1.7	9.2	34.1	57.3

出典：平成19年度厚生労働科学研究(主任研究者：河原和夫東京医科歯科大学教授)

疾患分類によるアクセス時間別分布



ドクターヘリによる治療開始時間の短縮効果



まとめ(千葉県の実績に関する分析を通じて)

- ドクターヘリは救命救急センターへのアクセスが「16ー30分の地域」、「30分以上の地域」の双方において有用。
- 救命救急センターへのアクセスが「30分以上の地域」で人口の約4～5割をカバーしている。
- ドクターヘリによる治療開始までの時間短縮効果を考慮すると、「30分以上の地域」において、有用性がより高まると言える。